

宇都宮の農産物売り込め 初の海外プロモーション

市、タイでイチゴ販売

本格的な輸出に期待



宇都宮市産イチゴを試食するタイ・バンコクの買い物客

【宇都宮】「農業王国うつのみや」を推進する市は、地域商社「ファーマーズ・フォレスト」(新里町)と共同で今月、タイでの市農産物プロモーションを行っている。市が独自に海外プロモーションを展開するのは初めて。1カ月間、バンコク市内の大型ショッピングモールで市産イチゴなどを試行的に販売する。消費者の反応を調査するとともに、取引業者間の信頼関係を構築するなどして、今秋を目標とする本格的な輸出につなげたい考えだ。(藤田りか)

7日の定例市議会一般質問で佐藤栄一市長が黒子英明氏(自民)の質問に答え「一環で、道の駅うつのみや」

問で佐藤栄一市長が黒子英明氏(自民)の質問に答え「一環で、道の駅うつのみや」

ろまんちっく村を運営する同社が、市内のイチゴ農家7軒が生産したとちおとめを集荷し、パック詰めして

輸出する。今月1日から月末まで、大型ショッピングモール2カ所に、それぞれ4・5平方メートルの市をPRする特設棚を設け、とちおとめを1パック9粒入り4千円で販売している。主に富裕層がターゲットで、期間中に計1080パックを出荷する予定。このほか市内産リンゴ、キウイも棚に並べる。佐藤市長は「昨年11月、沖縄での商談会でタイのバイヤーから高評価を得て販売提案があった。新年度からの本格輸出を期待する」と答弁した。同社の担当者は取材に「タイでの販売を検証しつつ、新年度は輸出に関わる生産者を増やしていきたい」と話している。